



Y
O
K
O
Y
A
M
A
N
O

のぞみ工房
BORO
襦袢作家
天野 洋子さん
男鹿市船越字内子1-671
TEL.0185-35-2622

私のGALLERY BORO



時を経てそこにある
布を愛しむ物づくり。

古い布の一針一針に
人が生き懸命に暮らした
時間がやどっている。
その歴史に思いを重ねて
新たな命を吹き込む。
もう一度、活かすために。

糸がすり切れ色あせた布でも、天野洋子さんの目には「自然の美しさ」に見える。
「穴が開くまで使われた布には、慣れ親しんだ感触があって、手にしつくりとなじんでくる。物が無い時代に工夫され、手を施されてきた布を、もう一度、着てみたいと思えます」
天野さんに出会ったボロボロの布たちは幸せだ。例えば、野良着としてすりへった木綿が、たっぷりと着心地のよい割烹着になり、市場かごを優しく包むおしゃれな布に変身する。さらに、使い込まれた蚊帳が、刺し子のマフラーによみがえる。
30年以上の洋裁のキャリアを持つ天野さんが、古布の再利用で物づくりを始めたのは10年ほど前からだという。一貫しているのは「普段の暮らしの中で自分が着たいものや持ちたいものを作る」ということ。その視線の先には、物を大切にしてきた先人たちへの思いがある。



「古布を探していると、実際に着ていた方から話を伺うことがあって、それがとても面白い」という天野さん。収集したあらゆる種類の古布は天野さんにとって、制作意欲をかきたてる「宝物」なのだろう。
男鹿の自宅からは、海が近い。流木の糸巻き、貝殻のオブジェなど、天野さんが手がける素材は布だけにとどまらず、山ブドウのつるで編んだブローチなどもあって、実に多彩。そして作品たちは、こう言っているようだ。
「まだまだ、いけるよ、楽しいよ」